

ポスト・フォーディズム、脱産業社会、情報社会の環境破壊

浅野慎一『人間的自然と社会環境』大学教育出版 2005年

第1部 人間環境と自然・社会

第6章 ポスト・フォーディズム、脱産業社会、情報社会の環境破壊

《克服すべき「常識」》

フォーディズム（大量生産）・産業社会が環境破壊の元凶だ。だからポスト・フォーディズム（多品種少量生産）、脱産業社会化・情報社会化の進展、及び、それらを支える技術的進歩や市民意識の成熟（エコ商品、厳格な環境規制）が、環境破壊を抑制・克服する。

【1. ポスト・フォーディズム、脱産業社会、情報社会論】

フォーディズム≡「少品種大量生産」。「産業社会」（製造業、第二次産業、物質生産）。

→ポスト・フォーディズム≡「多品種少量生産」。「脱産業社会」（サービス・情報産業、第三次産業）。

ex) 「モノとエネルギーはつつましく、情報とサービスは豊かに」。環境保全に新たな展望。

知識・情報：廃棄物を出さず。（≠モノ・エネルギーの消費）。

環境教育、高い環境保全意識・技術。厳格な環境規制。

市場原理に基づき、環境問題に敏感な「賢い消費者」、環境に優しい商品。

「収穫逦増の法則」。ex) パソコンの基本ソフト。コンピュータの無料ソフト。

個性的な「生産と消費」の一体化。

ex) 情報：需要の自己創出・喚起。廃棄物なし。無限の需要・消費空間を創造。

BUT 唯一の絶対的臨界＝環境と資源の有限性。∴ 環境保全の意識・技術が発展。

リピエッツ・「緑の党」：過剰消費によるエコロジー危機とその克服をめざす社会運動

＝ポスト・フォーディズムの新たな社会形成。

フォーディズム：1) 環境の加速度的な人工化→様々な機能不全の危機（事故・故障、被害の甚大化）。

2) 過剰消費による環境破壊。

∴ 1970年代以降、新たな環境保護の市民運動。＝ポスト・フォーディズム。

（≠旧来の労働運動＝フォーディズム）

環境社会学・環境経済学：「エコロジー的近代化論」。

ex) 「環境先進国」の環境政策・技術・意識・教育をモデルに。

「環境にやさしいエコ商品」。企業の厳格な環境規制（ISO14000等）。

BUT ポスト・フォーディズム：危機・環境破壊の進展・深化。

【2. 格差拡大】

生産の目的：利潤増殖・資本蓄積→所有と非所有の格差拡大。

1) 情報リテラシー（知的・文化的資本）→知的・文化的・経済的な格差・不平等の拡大。

2) 中核諸国での環境規制の厳格化

→a) 大量生産部門・環境破壊部門：周辺諸国への海外移転・海外現地生産。公害・環境破壊の「輸出」。

b) 巨大資本による独占・寡占。（環境規制による「弱者」淘汰）。

多国籍化した巨大資本：a) 地球規模・周辺諸国での環境破壊を一層推進。

b) 中核諸国内で「エコ商品」の新たな市場創出。

c) 環境基準をクリアできない企業を駆逐。寡占・独占推進。

環境規制：利潤増殖・資本蓄積の戦略・手段。（その範囲内での環境保護）。

【3. 情報社会を支える物質的基盤】

ポスト・フォーディズムの知・情報・サービス・文化：莫大な物質・経済・産業の基盤上に成立。

ex) コンピュータ、インターネット、通信衛星、「世界都市（空間装置）」、エネルギー消費。

情報・サービスの発展→グローバルな物流・交通の膨張。

ポスト・フォーディズムの社会：モノ・エネルギーの大量消費 & 情報・サービスの大量消費の相互促進。
(≠「モノとエネルギーが慎ましい社会」)

ハイテク物財の廃棄物の有効な処理法は？ …「我が亡き後に洪水は来れ！」。

ポスト・フォーディズム：多品種少量生産。BUT 生産物総量の飛躍的増加。

従来型の少品種大量生産に比べても一層、莫大な生産設備、資源・エネルギー消費。

【4. 新国際分業と「超産業社会」】

ポスト・フォーディズムのサービス・情報産業：

「新国際分業、サプライチェーン」に基づく世界規模での大量生産・大量消費システムを前提。

その中枢管理機能の高度化、知識集約型産業の集積。

1960年代以降、中核諸国の主要企業：多国籍企業化。「世界の工場」：周辺諸国に。

中核諸国：情報・サービス産業、周辺諸国：製造業。

→グローバルな情報収集・分析、意思決定＝中枢管理システムの強化。

知識集約型・サービス・情報産業の構築。

ポスト・フォーディズム（環境教育、高い環境保全意識・技術、厳格な環境規制、「賢い消費者」、「エコ商品」）：地球規模の大量生産体制（「超産業社会 (ultra industrial society)」）の不可欠の一環。

【5. 文化帝国主義】

「知や情報の『収獲遞増の法則』」？。

No! 独占・階級格差の拡大、没個性化の最大の契機。(≠個性的な「生産と消費」の一体化)。

AI・ビッグデータ：無個性化、没主体化。

デジタル・ディバイド：階級格差・経済格差の拡大。(脱落者＝自己責任)

基本ソフトの無料開放≠人間の解放。

ex) 英語の「無料開放」・「世界語」化。

→a) 国境を越えた世界的コミュニケーション、普遍的・類的な知の形成を促進。

b) 英語・英語能力＝知的・文化的資本。→階級格差を拡大。人類の文化的多様性・個性を破壊。

大英帝国、戦後のアメリカ合衆国の国益。

英語の世界語化：1588年頃～、スペインとの覇権交替。

1750年代～、大英帝国の形成、広大な植民地獲得。

言語を含む知・知識のグローバル化：地球大の階級格差を拡張する文化資本としても機能。

多文化共生・異文化理解：問題を解決せず。(「文化」への視野限定。利潤増殖・資本蓄積の手段)

(≡「個性的新商品：使用価値への視野限定。利潤増殖・資本蓄積の手段」)

【6. 「モノ」と「知・情報」の二元論の克服】

知識のネットワークキング、情報・通信手段の発展：重要な意義。

BUT 「物質・経済・産業中心の社会(フォーディズム) → 知識・情報・文化の社会(ポスト・フォーディズム)＝環境問題の解決・改善」との楽観主義の批判・克服。

「知・情報・文化」と「物質・経済・産業」は表裏一体。

ポスト・フォーディズムの脱産業社会・情報社会化・グローバルな知のネットワークキング：

新国際分業に基づくグローバルな「超産業社会」の不可欠の構成要素。

＝環境破壊の推進力。(≠環境破壊を抑制・克服する力)。

「知・情報・文化」と「物質・経済・産業」の二者択一から脱却。

両者を貫く利潤増殖至上主義を克服。人間中心主義の生産様式に改変。

【7. まとめ】

《克服すべき「常識」》

フォーディズム(大量生産)・産業社会が環境破壊の元凶だ。だからポスト・フォーディズム(多品種少量生産)、脱産業社会化・情報社会化の進展、及び、それらを支える技術的進歩や市民意識の成熟(エコ商品、厳格な環境規制)が、環境破壊を抑制・克服する。

NO! ポスト・フォーディズム：新国際分業(多国籍企業化、周辺地域の「世界の工場」化)に基づく地球大の「超産業社会」の不可欠の構成要素。

1) 利潤増殖・資本蓄積→階級間・地域間格差の拡大。

& 厳しい環境規制→a) 新国際分業の促進。公害・環境破壊の輸出。

b) 独占・寡占の促進。「弱者」の淘汰。

2) ポスト・フォードイズムの知・情報・サービス・文化：莫大な物質・経済・産業基盤の上に成立。

情報・サービスの発展→グローバルな物流・交通を促進。

「モノ・エネルギーの大量消費 & 情報・サービスの大量消費」が相互促進。

ポスト・フォードイズム：グローバルな大量生産システムの中核管理機能の高度化

= 知識集約型・サービス産業の集積。（地球環境破壊の推進力。≠抑制力）

→ 「知・情報・文化（生活）」と「物質・経済・産業」の二者択一の発想から脱却する必要。

両者を貫く利潤増殖至上主義を克服。人間中心主義の生産様式に改変。